

競技注意事項

※【競技会参加校（チーム）の顧問（監督）の皆様へ】を必ず確認して参加すること。

1 競技規則について

- (1) 本大会は、2020年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項によって行う。
- (2) 引率責任者は、団体の場合は校長が認める当該校の副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、実習助手、常勤講師、部活動指導員（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）又は校長とする。個人の場合は校長が認める当該校又は他の学校の副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、実習助手、常勤講師、部活動指導員（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）又は校長とする。
- (3) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

2 競技者の招集について

- (1) 競技者招集所は、正面玄関外側の100mスタート方向に設置する。
- (2) 招集時間

競技種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技 予選	競技開始 60分前	競技開始 20分前
トラック競技 準決・決勝	競技開始 30分前	競技開始 15分前
リレー競技 予選・決勝	競技開始 30分前	競技開始 15分前
フィールド競技	競技開始 90分前	競技開始 60分前

- (3) 招集の手順

- ① 競技者または代理人が招集所の招集用紙に○印をつけ、各競技の場所で最終点呼を受ける。
- ② 代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に競技者係に申し出ること。
- ③ 混成競技の招集は、両日共に第1種目は競技者または代理人が招集所の招集用紙に○印をつける。第2種目からは、現地で招集を受ける。
- ④ リレー競技に出場する選手（4名全員）は、招集時刻内に招集所にて招集を受ける。ただし、その時間に他種目に出場する選手がいる場合は、その旨を招集時に競技者係に申し出ること。
- ⑤ 棄権する競技者は棄権届用紙（招集所に準備）に記入し招集開始時刻までに招集所に提出すること。
- ⑥ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものととして処理する。
- ⑦ リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンド毎に招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙（招集所に準備）を招集所競技者係に提出すること。また、招集は規定通りに受けること。オーダー用紙の提出後は変更できない。怪我等の特別な理由がある時は本部へ申し出る。大会のドクターかトレーナーの診察を受け、変更を認めることがある。招集時間完了後は変更できない。
- ⑧ リレー種目で大会ドクターかトレーナーからの診断を受け変更を認められ不出場になった選手は、翌日に大会へ参加する場合、再度、大会ドクターかトレーナーの診断を受け出場する事が出来る。
- ⑨ リレーのエントリー以外からリレー出場の場合は、オーダー用紙の氏名右にエントリーした他種目名を記入すること。

3 アスリートビブスについて

- (1) 出場者はアスリートビブスを胸部と背部につけて出場しなければならない。
- (2) トラック競技者は、招集所で競技者係から渡されたレーンナンバーカードを右腰やや後方につけること。
- (3) 跳躍競技の出場者は、胸部または背部のいずれかを除いてもよい。

4 競技について

- (1) 当該競技に参加する競技者以外は、競技場内に立ち入らないこと。
- (2) スパイクシューズのピンの長さは、トラック種目及び走幅跳は9mm以下、走幅跳以外のフィールド種目は12mm以下とし、全天候型走路専用ピンに限る。

※福岡陸上競技協会ホームページに掲載されている【「WA規則第143条（TR5：シューズ）のルール再改定における日本国内での適用」を受けて今後の福岡陸上競技協会主催大会のWA規則の適用について】を確認して下さい。

- (3) 男子共通3000mSCに出場する選手は、スパイクシューズを履いて出場しなければならない。スパイクシューズを履いていない選手は、安全面の観点から出場させない。
- (4) トラック競技において、欠場者のレーンは、そのまま空けておく。
- (5) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (6) 男女800m予選・決勝は、1レーンに2名のセパレートレーンで行う。
- (7) 長距離・競歩種目については、気象の状況により給水を設けることがある。
- (8) 4×400mリレーの第3・4走者は、競技役員の指示に従い前走者が200mスタート地点を通過した順位で、内側から並び待機する。その後、順位に変動があっても、位置を変えてはならない。なお、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チーム走者の走路を妨害しないように留意すること。
- (9) リレーに出場するチームは、各校同一のユニフォームを着用すること。
- (10) 次のトラック競技は、スタート後下記の時間で競技を打ち切る。ただし、この時間に大水濠を通過したものは、そのままフィニッシュラインへ向かってよい。

男子 5000m：18分30秒 3000mSC：13分00秒 女子 3000m：13分00秒 男女 5000mW：35分00秒

- (11) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、次のとおりとする。ただし、気象条件等により変更することもある。

男子走高跳 1.65 ～（5cm刻み）～ 1.85 1.88（以降3cm刻み）

女子走高跳 1.30 ～（5cm刻み）～ 1.50 1.53（以降3cm刻み）

男子八種走高跳 1.45 ～（5cm刻み）～ 1.70 1.73（以降3cm刻み）最初の高さの申告可

女子七種走高跳 1.20 ～（5cm刻み）～ 1.45 1.48（以降3cm刻み）最初の高さの申告可

- (12) 次のフィールド競技は、下記の記録以下は計測しない。ただし、気象条件等により変更することがある。

男子 走幅跳 5.50 三段跳 11.30

女子 走幅跳 4.20

- (13) 投てき競技に出場する競技者は、事故防止に十分に注意すること。

- (14) 通信機器（携帯電話・トランシーバー等）、音響端末機器等の競技場内への持ち込みは禁止する。競技場内に持ち込む荷物の中にも入れないこと。

5 競技の抽選及び番組編成について

- (1) トラック種目における準決勝・決勝へのプラス進出者については、該当競技者の最下位に同記録が複数出た場合、写真判定により写真を拡大し「着差あり」まで判定する。それでも決まらない場合は、レーンに余裕があれば次のラウンドに進める。レーンに余裕がない場合は、「同着」とし抽選する。

ただし、1500m以上の長距離種目での同記録者は、全員次のラウンドへ進むことができる。

- (2) 抽選は、本部の番組編成席で行う。抽選のアナウンス後5分経過しても該当競技者が番組編成席に来ない場合は本部が代理で行う。
- (3) 予選タイムレースの競技については、記録上位8名（チーム）が決勝に進出する。ただし、男女800mは予選タイム上位12名が決勝に進出することができる。

6 競技用具について

- (1) この競技会で使用する用器具は、主催者で用意した競技場備え付けのものを使用しなければならない。
- (2) 棒高跳用ポールは個人持参の物の使用を認める。やりは、個人持参の物を主催者で検査のうえ使用を認める。ただし、共通使用とする。
- (3) 検査は、第4ゲート用器具倉庫にて時間（通告する）を決めて行う。

7 練習について

- (1) フィールド種目の練習は、招集後に本競技場内で行う。
- (2) 投てき練習場での練習は、ハンマー投のみ9月5日（土）の9時まで認める。投てき練習場へは、関係者以外は立ち入らないこと。ハンマー投の本競技場での練習は、公式練習2回のみ行う。
- (3) 競技場内の練習については事故防止のため、すべて競技役員の指示に従うこと。
- (4) 雨天練習場使用は禁止する。

8 表彰について

- (1) 表彰は行わない。第3位までの入賞者に賞状を渡す。各校顧問は本部に受け取りに来る。
- (2) 学校対校は総合の部・トラックの部・フィールドの部のそれぞれ第3位までに賞状を渡す。各校顧問は本部に受け取りに来る。
- (3) 入賞者の得点は、1位6点、2位5点、以下4・3・2・1点とする。

9 県大会について

- (1) 本大会第8位までの入賞者は、県大会（9/19～20 博多の森陸上競技場）の出場資格を得る。ただし、男女競歩・女子三段跳・女子棒高跳・女子ハンマー投は第6位まで、男女混成競技は第5位までとする。
- (2) 県大会出場資格を得た学校は、大会本部で必要書類を受け取り所定の手続きを行う。「仮申し込み書」は本大会終了後速やかに（大会中でも可）大会本部へ提出する。なお、正式申込書等については県高体連のホームページよりダウンロードし、9月9日（水）必着で専門委員長（純真高校 宮本）宛送付すること。
- (3) 男女混成競技の県大会出場者は、「仮申し込み書」に走高跳の最初の高さの希望を記入すること。
- (4) 県大会参加料は、徴収しない。

10 その他

- (1) 記録については通告をするが、別にフィニッシュライン側玄関外側に掲示する。
- (2) スタンドにはテントを設置しないこと。
- (3) 各校の控え所については、譲り合って使用し、必要以上の広さを確保専有しないこと。
- (4) 各校の控え所の目印等で、紙のガムテープを床に貼らないこと。
- (5) 雨天練習場を各校の控え所としての使用は禁止する。

- (6) 各校の応援用横断幕・のぼりは、サイド・バックスタンドの中段以上とし、スタンドの一番下には張らないこと。のぼりはメインスタンド最上段に掲示してもよい。
- (7) 集団での応援は禁止、また応援者同士の距離を2mほど開ける。また、タイム読みも禁止する。拍子での応援は可。
- (8) フィールド競技を行っている際のその付近での応援（拍手）は禁止する。
- (9) 更衣室は更衣のみに使用し、私物は一切置かないこと。競技終了後は速やかに更衣をすませ、更衣室を出ること。100mゴール付近の更衣室のみ利用可。
- (10) ゴミについては、各学校（各個人）で責任を持って持ち帰ること。
- (11) ビデオを見せる場合は、スタンドからのみ認める。吊り下げや手渡し、競技者が視聴のため競技区域から離脱する行為は認めない。

競技会参加校（チーム）の顧問（監督）の皆様へ

（1）参加学校（チーム）の顧問（監督）の皆様へのご協力をお願い。

新型コロナウイルス感染症が終息または、ワクチン等が開発されるまでは当分の間、以下の留意点の遵守にご協力をお願いします。

- ①参加選手の体調の把握をお願いします。少しでも体調の悪い選手は競技会への出場を辞退させてください。【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙1）の作成と確認をしてください。学校受付時に参加者全員分を提出してください。コピーの保管をしておいてください。

体調不良の選手が出た場合は、氏名を主催者にお知らせください。

- ②競技会へ出場する選手のみ参加とします。応援、付き添いのためだけの者は会場に来させないでください。練習会場なども同様とします。ただし、熱中症など防止対策として長距離種目については、指定地点（ゴール地点から前方のシャッターを出て右側）に各校1名の付き添いをつけてください。競技会へ出場せず、補助員で参加する場合は例外とします。ご協力をお願いします。
- ③保護者、家族、卒業生等の方の会場への来場はお控えいただくように連絡してください。選手の送迎についてはこの限りではありません。
- ④選手控所については、主催者で間隔をあけるため禁止場所を設定しますので（禁止の表示）、それ以外の場所で設置をお願いします。
- ⑤選手控所で休憩する場合は、ソーシャルディスタンスを確保するよう指導をお願いします。また、大声で会話等することのないよう指導をお願いします。
- ⑥ごみは各自で、各学校で必ず持ち帰ってください。
- ⑦競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合には最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告し、保健所、医師会、診療所等に相談後、必ず福岡県陸上専門委員長（筑前高校：凌 092-807-0611）に報告してください。その際に【大会後】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙2）のコピーを提出してください。個人情報には、細心の注意を図ってください。

・居住地の相談窓口や、帰国者・接触者相談センターに電話で相談する。

福岡市新型コロナウイルス感染症相談ダイヤル（24時間受付）：092-711-4126

筑紫保健所福祉環境事務所：092-707-0524

福岡県夜間休日緊急連絡番号：092-471-0264

（2）参加者が競技を行う際の留意点

1) 基本的注意事項

参加学校（チーム）の顧問（監督）の皆様から競技会の参加者に対し、以下の留意点や遵守すべき内容を周知・徹底を指導してください。

- ①招集所では他の選手とはソーシャルディスタンスを確保し招集を受ける。
- ②唾や痰を吐く行為は行わない。
- ③タオルの共用はしない。タオルは各自で持参する。
- ④控所では、周囲の人とソーシャルディスタンスを確保する。大声で会話をしない。
- ⑤試合中などに選手が倒れた場合は直接接触することをせず、医務室や大会本部へ連絡する。ただし、緊急を要する場合は、その限りではない。

2) トラック競技

- ① レース中にマスクを着ける必要はないが、招集中・移動中・待機中は着用する。マスク着用による熱中症にも注意をする。
- ② レース終了後、手洗い・洗顔を徹底する。

3) フィールド競技

- ① 待機場所における選手同士のソーシャルディスタンスを確保する。競技役員の指示で、通路などの利用を指示する場合もある。
- ② 投てき器具については共用となるので、終了後の手洗い・洗顔を行う。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意する。
- ③ 助走練習、投てき練習時に並ぶときは、ソーシャルディスタンスを確保する。
- ④ 選手同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用する。

4) ウォーミングアップ会場の配慮事項

- ① ソーシャルディスタンス確保の工夫を行う。
- ② 競技者自身のみでウォーミングアップを行う。(付き添いは付かない)
- ③ ウォーミングアップ会場での観戦を禁止する。
- ④ 雨天練習場の利用は禁止する。

(3) その他留意事項

1) 体調の確認

学校(チーム)で参加する場合は、選手の体調管理のため、顧問(監督)の方が以下の書面を作成し持参する。学校受付時に提出する。コピーの保管をしておいてください。

・【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート(別紙1)

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先、所属名、保護者氏名
- ② イベント1週間前から当日の体温
- ③ 競技会前1週間前から当日の以下の事項の有無
 - ア のどの痛みがある
 - イ 咳(せき)が出る
 - ウ 痰(たん)がでたり、からんだりする
 - エ 鼻水(はなみず)、鼻づまりがある ※アレルギーを除く
 - オ 頭が痛い
 - カ 体のだるさなどがある
 - キ 発熱の症状がある
 - ク 息苦しさがあ
 - ケ 味覚異常(味がしない)
 - コ 嗅覚異常(匂いがしない)
 - サ 平熱を超える発熱
 - シ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触(※別紙1に記載なし)
 - ス 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる(※別紙1に記載なし)
 - セ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある(※別紙1に記載なし)

2) マスク等の準備

学校（チーム）の競技会参加者がマスクを準備しているか確認する。参加者が、運動・スポーツを行っていない間、特に会話するときには、マスクの着用を指示する。

3) 競技会の参加前後の留意点

競技会に参加する学校（チーム）は、競技会前後のミーティングなどで3つの密を避ける。会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分配慮する。

4) 手洗いの実施

競技会の中に手洗いをこまめに行うよう指導してください。

①手洗いは、30秒以上行う。石鹸は競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参する。

②手洗い後、手をふくために各自でタオル等を準備する。タオル等を共用しない。

③手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参する。

④フィールド競技に出場する競技者は、競技終了後手洗い、洗顔を実施させる。

5) 更衣室、休憩、待機スペースでの行動について

更衣室は100mゴール地点側のみ利用できる。ただし、シャワーの使用は禁止する。

休憩、待機スペースは感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。そのため以下に配慮して使用するよう指導してください。

①広さにゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。

②ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度にスペースに入らないよう指示する。

③室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）を使用した場合は、こまめに手洗いをする。

6) 洗面所

洗面所（トイレ）も感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。そのため以下に配慮して使用するよう指導してください。

①トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー）を使用した場合は、こまめに手洗いをする。

②トイレの便器の蓋を閉めて汚物を流すよう指示する。

③手洗いは、30秒以上行うよう指示をする。

④手洗い後、手をふくために個人でタオル等を準備するよう指示をする。

7) 観客の管理

①各学校（チーム）の顧問（監督）の方から、保護者、家族、選手以外の友人などの応援者は、会場（競技場スタンド・選手控所）への入場を自粛してもらうよう伝達していただく。今回の競技会については、無観衆で実施する。

②集団での応援は禁止、また応援者同士の距離を2mほど開ける。大声をだして応援しない。また、タイム読みも禁止する。手拍子での応援は可。

8) ごみの廃棄

各チームが出したごみは持ち帰る。また、以下に配慮して回収を行う。

①鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れ密閉する。

②ごみを回収する人は、手袋やマスクを着用する。回収が終わったら必ず石鹸と流水で手を洗う。

[施設における配慮事項]

(1) 施設入場時の配慮事項

- ①手指消毒剤の準備。(競技場管理者及び競技会主催者)
- ②ソーシャルディスタンス確保の呼びかけ。

(2) 施設利用上の配慮事項

- ①常時換気の実施(窓開け・戸開けの実施)
- ②諸室・招集所などの座席配置の工夫。(ソーシャルディスタンスを確保)
- ③直接の接触回避の工夫。
- ④多くの者が接触する可能性がある個所の清掃・消毒を通常よりも多く行う。
(施設管理者の方への協力依頼)
- ⑤トイレの清潔化の徹底。(便座の蓋をしてから流す)
- ⑥ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知する。また、アナウンスも行う。
- ⑦発熱者が出た場合の隔離用の部屋を確保する。

[報道取材者への協力事項]

- ①競技に関する取材のみ認める。
- ②福岡県高体連と福岡県高体連陸上専門委員長(筑前高校: 凌092-807-0611)に取材の申請を必ず行う。その際、【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート(別紙1)を作成し提出すること。
- ③取材人数は、1社1名を基本とする。
- ④取材エリアについては、競技・審判に支障がなく安全なエリアで行う。審判の指示に必ず従う。
- ⑤会場内では、ソーシャルディスタンスを確保し、3密を防ぐ。
- ⑥取材中は、必ずマスクを着用する。また、ビブスを必ず着用する。
- ⑦選手・監督への取材は行わない。
- ⑧会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける。

【参考】

○各校顧問の動き

①競技会前

- ・【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙1）の作成と確認。コピーの保管をしておいてください。

②競技会当日

- ・正面玄関前で、学校受付と審判受付を行う。
【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙1）を提出し、体調不良者がいないことを報告する。
審判業務につく方で、審判員胸章を忘れた（持っていない）方は代わりに証明書を受け取る。競技会終了時には返却する。審判員胸章か代わりに証明書を持っている方は、競技場1階室内など立ち入り禁止区域に入ることができる。
- ・各種提出物（お金含む）や選手変更手続きも正面玄関前で行う。
- ・「競技会参加校（チーム）の顧問（監督）の皆様へ」が守られているか、確認を行い生徒などに適切な指示を出す。
- ・体調不良の選手が出た場合は、氏名を大会本部へ報告する。

③競技会後

- ・【大会後】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙2）の作成
- ・競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合には最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告し、保健所、医師会、診療所等に相談後、必ず福岡県陸上専門委員長（筑前高校：凌 092-807-0611）に報告する。その際に【大会後】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙2）のコピーを提出する。個人情報には、細心の注意を図る。

○選手などの動き

①競技会前

- ・【大会前】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙1）の作成
コピーの保管をしておいてください。

②競技会当日

- ・競技場1階室内など立ち入り禁止区域に入ることができない。更衣室は100mゴール地点側のみ利用できる。ただし、シャワーの使用は禁止する。
- ・競技場1階への出入りは、100mスタート地点後方出入口と100mゴール地点前方出入口から行う。
- ・第1コーナーからスタートする選手は、招集終了後、100mゴール地点から前方出入口を出て右側の待機場所へ行き、指示を受ける。第1コーナー付近の倉庫内は立ち入り禁止。
- ・第3コーナーからスタートする選手は、招集終了後、第3コーナー出入口付近（審判で指示）へ行き、指示を受ける。
- ・第4コーナーからスタートする選手は、招集終了後、招集所横へ行き、指示を受ける。
- ・選手変更手続きは正面玄関前で行う。
- ・「競技会参加校（チーム）の顧問（監督）の皆様へ」が守られているか、確認を行いながら競技会に参加する。

③競技会後

- ・【大会後】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート（別紙2）の作成
- ・競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合には最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告し、保健所、医師会、診療所等に相談する。

○待機場所など

- ・競技場1階外側メインスタンド裏

待機ができる場所とできない場所を区分けしている。今まで利用できていた100mゴール地点から前方出入口を出て右側の待機場所の一部と招集所横は利用できない。

- ・競技場1階外側バックスタンド裏

待機ができる場所とできない場所を区分けしている。

- ・競技場3階メインスタンド裏

待機ができる場所とできない場所を区分けしている。

- ・メインスタンド

中央通路より上を待機場所とする。ターフなどを使ってよい。ただし、他校との間を2m以上取り、風などで飛ばないようにする。また、写真判定に支障が出るため、ゴール地点と写真判定室を結ぶライン上は場所取りを禁止する。

中央通路より下を観戦場所とする。ソーシャルディスタンスを確保する。

- ・サイドスタンド

上半分の青座席の部分を待機場所とする。ターフなどを使ってよい。ただし、他校との間を2m以上取り、風などで飛ばないようにする。

下半分を観戦場所とする。ソーシャルディスタンスを確保する。

- ・バックスタンド

上半分の青座席の部分を待機場所とする。ターフなどを使ってよい。ただし、他校との間を2m以上取り、風などで飛ばないようにする。通路より上の聖火台付近は待機場所としない。

下半分を観戦場所とする。ソーシャルディスタンスを確保する。

※雨天練習場は利用禁止。

○その他

- ・怪我などで医務室を利用する場合でテーピングが必要なときは、各校で準備する。テーピングの販売は行わない。